

東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2023 年 No.2(2023.7)

-
- ・第 76 回東北学生陸上競技対校選手権大会
 - ・・・根本(4)が男子十種競技において 6389 点で優勝
 - ・・・菅田(3)が女子 800m において 2:12.40 で優勝
 - ・第 84 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦
兼第 36 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦
 - ・・・男子総合 2 位(通算 49 勝 31 敗 1 分)、女子総合 2 位(通算 6 勝 22 敗)
-

- | | |
|--|-----------|
| ・第 76 回東北学生陸上競技対校選手権大会 | 2～13 ページ |
| ・第 84 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦
兼第 36 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦 | 14～20 ページ |
| ・全国七大学対校陸上競技大会への抱負 | 21～23 ページ |
| ・自己ベスト更新者一覧 | 23 ページ |
| ・今後の予定 | 24 ページ |
| ・編集後記 | 24 ページ |

小暑の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。今号では、東北インカレ、北海道大学対東北大学定期戦の結果と七大戦に向けた抱負をお伝えします。

◎第76回東北学生陸上競技対校選手権大会・・・北上総合運動公園陸上競技場

6/9(金)～6/11(日)の3日間にわたり北上総合運動公園陸上競技場にて第76回東北学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。東北大学は男子総合3位、女子総合5位と健闘しました。対校得点の結果、入賞者一覧と出場選手の観戦記を紹介します。

結果

男子総合	96.5点	3位	女子総合	51点	5位
男子トラック	60点	4位	女子トラック	23点	5位
男子フィールド	23.5点	6位	女子フィールド	28点	4位

入賞者一覧

男子 400m	3位	佐藤千仁(M1)	男子棒高跳	4位	島村惟葵(2)
男子 800m	4位	大塚光陽(3)	男子三段跳	6位	大谷航平(4)
	6位	千葉琢巳(5)		7位	藤田想(3)
男子 1500m	3位	日引英舜(1)	男子砲丸投	8位	大野誠尚(M2)
	8位	渡邊優典(1)	男子円盤投	8位	大野誠尚(M2)
男子 5000m	6位	工藤大介(M1)	男子やり投	5位	増田併介(1)
	7位	千葉航太(2)	男子ハンマー投	7位	川内蒼馬(3)
男子 10000m	4位	千葉航太(2)		8位	金岡有途(2)
	5位	藪下温司(M2)	男子十種競技	1位	根本大輝(4)
	7位	工藤大介(M1)		4位	米井潤風(M2)
男子 110mH	7位	西里碧澄(2)	女子 400m	7位	加賀谷美結(2)
男子 400mH	5位	二ノ神遼(6)	女子 800m	1位	菅田理乃(3)
男子 3000mSC	6位	阿部圭宏(5)		4位	加賀谷美結(2)
	8位	小林由輝(3)	女子 4×100mR	6位	加賀谷-伊藤-西條-菊地
男子 10000mW	6位	田中伊織(2)	女子 4×400mR	4位	加賀谷-伊藤-原田-菅田
	7位	杉山大輔(2)	女子走高跳	3位	原田萌々子(3)
男子 4×100mR	8位	笹山-上村-西尾-川手	女子走幅跳	4位	伊藤未空(4)
男子 4×400mR	2位	佐藤-西尾-川野輪-佐藤	女子三段跳	4位	伊藤未空(4)
男子走高跳	5位	嶋崎雄飛(4)	女子砲丸投	4位	平谷めるも(2)
	8位	平山朝陽(3)	女子ハンマー投	2位	平谷めるも(2)

観戦記

男子 100m 予選

2組 4着 笹山一星(4)11.38(-1.6)

スタートで出遅れたが、落ち着いて走り、着順で準決勝進出。

3組 4着 川手拓朗(3) 11.32(+0.3)

準決勝進出のため4着以内に入ることを目標としてレースに臨んだ。無事準決勝に駒を進められたのが良かった点だが、50m付近で2レーンの選手に越された焦りから少し動きが硬くなってしまった。

5組 4着 上村尠之(M2)11.25(-0.3)

スタートの反応は良かったものの、二次加速区間でうまく加速できず、トップスピードが小さいまま中間疾走区間へ。そのまま4着でフィニッシュ。

男子 100m 準決勝

1組 7着 川手拓朗(3) 11.21(+0.7)

ブロックを予選より少し前を出しスタートから勝負を仕掛けることにしたが、2次加速でスピードに乗り切ることができず前日の疲れもあってか後半の失速が激しく納得のいく走りはできなかった。走りの内容に対しタイムはセカンドベストだったことが唯一希望が持てる点だった。

2組 6着 笹山一星(4)11.19(+1.2)

スタートでうまく反応できたが、中盤から力み失速。6着でフィニッシュ。

3組 6着 上村尠之(M2)11.14(-0.6)

スタートの反応は良かったものの、予選同様二次加速区間でうまく加速できず、トップスピードが小さいまま中間疾走区間へ。中間疾走でスピードを維持するも、差は縮まらず、6着でフィニッシュ。

男子 200m 予選

2組 4着 菅野涼太(2) 22.63 (-0.6)

天候もよくいい走りが期待できた。今まで後半のスピード維持が課題だったが今回はある程度

できた。一応PBだがコンディションを考えるともう一歩だった。

4組 4着 川野輪拓也(3) 22.71(-1.3)

緊張でスタートが遅れた。後半には自信があったためストライドで伸ばしタイムで通過した。

5組 3着 上村尠之(M2)22.78(-2.0)

力みながらの加速であったがストライド大きく駆け、カーブを抜けた時点で3着、そのままの順位を維持して3着でフィニッシュ。

男子 200m 準決勝

1組 4着 上村尠之(M2)22.43(-0.8)

カーブ前半で加速したものの状態が上がってしまい6着で直線に突入。後半はスピードを維持し2人抜いて4着でフィニッシュ。

2組 6着 川野輪拓也(3) 22.57(-0.1)

緊張せずに良いスタートを切れた。自己ベストを0.1秒更新したが、自力が及ばず準決勝敗退。

3組 8着 菅野涼太(2) 22.79(-0.4)

足の痛みが出ていて広げられないストライドをピッチでカバーしようとしたが動きが噛み合わなかった。そのため後半100で伸びず、悔しい結果になった。

男子 400m 予選

2組 2着 佐藤千仁(M1) 49.17

決勝進出条件が各組1着+タイム上位4名であったため、予選から好タイムを意識しつつ組上位を狙った。結果として、概ね予想通りのタイムと順位をとり、タイムで決勝に進んだ。レース展開は、250mまでは本気のレースを行い、そこからは脱力しつつタイムを落とさない効率的な動きを意識した。

4組 2着 佐藤芳樹(6)50.37

前半200mからスピードを出そうと意気込んで入ったが、バックストレートで力みがでてしまっていた分、ホームストレートで足が止まってしまい2着でゴール。

DNS 斉藤宥哉(4)

男子 400m 決勝

3 位 佐藤千仁(M1) 49.08

昨年同様の順位かつ、予選同様のタイムだったが、内容は全く異なるものだった。予選で余力を残して臨んだが、後半の動きが上がらず、49 秒台のフィニッシュとなった。体のキレや筋力は過去最高の仕上がりだった。しかし、昨年までに比べ、冬季練習の量が減っていたことが結果に表れ、対校戦のラウンドに耐える力がないことを確信した。よって、本レースをもって対校 400m からは引退し、後輩に希望を託すこととした。来年以降、優勝者が現れることを切に願っている。



男子 800m 予選

1 組 4 着 尾崎祐太(3) 1:57.11

プラスでの決勝進出を狙うため、序盤から飛ばしてスタートするも、500m 以降垂れてしまい、組 4 着、プラスの 5 番手で予選落ち。

2 組 2 着 大塚光陽(3) 1:56.90

スタートから二番手で展開。そのままレースを進め、残り 150m からスパートして先頭に立つも、最後に抜かれて 2 着でのゴールとなった。

3 組 2 着 千葉琢巳(5) 1:56.69

最初の一週は後方からのスタート、5 番手でレースを進める。500m 過ぎてバックストレートでペースが上がり集団の前方へ。ラストは先頭を追うも及ばずそのまま 2 着でフィニッシュ。プラスの一番手で決勝進出。

男子 800m 決勝

4 位 大塚光陽(3) 1:56.28

スタートから 8 番手でレースを進め、スパートに備える。そのままレースを進め、残り 200m からスパート。4 番手まで順位を上げたものの悔しいフィニッシュとなった。

6 位 千葉琢巳(5) 1:57.01

予選と同じく集団後方からのスタート。バックストレートで一人抜け出し、それに続いて集団のペースが上がるも前方で勝負できず。ラスト 100m の直線でも力を出せずそのまま 6 着でフィニッシュ。



男子 1500m 決勝

3 位 日引英舜(1) 4:00.76

スタートで位置取りに失敗し、ほぼ最後尾からのスタートになってしまったが、集団の中で落ち着いて力をため、ラスト 100m でスパートし、まさかの 3 位でゴールできた。

8 位 渡邊優典(1) 4:04.10

思い描いたレース展開ではありませんでしたが、終始レースを引っ張って自己ベストを更新する走りことができました。今後の成長がさらに期待です。

12 位 北嶋僚大(1) 4:10.14

スタートで出遅れ、800m 地点あたりまで追いかける展開になってしまった。その後先頭に立つもペースを上げることができずすぐに抜かされて、そのままフィニッシュしてしまった。

男子 5000m 決勝

6位 工藤大介(M1) 15:26.27

3000m 過ぎまで第二集団にいたが、離れてからは単独走となった。ラスト 1 周で一人に抜かれ、6 位でフィニッシュ。

7位 千葉航太(2)

前々日の 10000m のレースの疲れもありアップから全然体が動かなかった。スタートして東北福祉大の選手が飛び出し、2 位集団でレースを進めたが 3000m ぐらいにペースが上がりそれに対応しきれず垂れて行ってしまい、最後福島大の選手にも刺され結果 7 位でゴールした。最低限入賞はできたものの、とても不甲斐ないレースをしてしまった。

DNS 向田祐翔(3)

男子 10000m 決勝

4位 千葉航太(2) 32:16.52

東北学院大の 2 選手が飛び出したため、3 位集団でレースを進めたが 7000m 手前で粘りきれず離れてしまった。その後はペースも落ちてしまい前を追うことができず 4 着でゴールした。表彰台を逃しタイムも到底満足のいくものではなかったため非常に悔しい結果になってしまった。

5位 藪下温司(M2)32:38.78

レース前半は 1000m あたり 3 分 10 秒前後のペースの 3 位集団に付いて走っていた。しかし、4000m から 5000m で集団のペースが少し上がったことに対応出来ず集団から離れてしまう。集団から離された後は前後どちらとの差も縮まらないまま、5 着でゴールすることとなった。目標であった 3 位に届かず悔しさが残ったので、今回の悔しさを今後のレースで晴らせるよう練習を積んでいきたい。

7位 工藤大介(M1) 33:10.65

5000m 手前まで 3 位集団で走っていたが、離れてからは全く粘れなかった。自分の実力不足を痛感するレースとなった。

男子 110mH 予選

1組 5着 西里碧澄(2)15.29(-0.7)

スタートの飛び出しは悪くなく、2 台目までの加速はまずまずだった。踏切位置がハードルの手前になってしまったため、全体的に浮くハードリングになってしまったのが勿体無い。5 着でゴールし、タイムでギリギリ拾われた。

DNS 中村祐貴(M1)

男子 110mH 決勝

7位 西里碧澄(2)15.39(-1.3)

スタートで出遅れてしまったため、終始追いかける展開になってしまった。ハードルをぶつける回数が多く、失速が大きかったのも原因の 1 つ。向かい風が強かったが、予選よりもタイムを上げている選手が多く、悔しさが残るレースだった。

男子 400mH 予選

2組 4着 阿部竜胆(2)55.27

前日に首を寝違えて何も出来なかった。試合当日は何とか出場したが、練習してきた後半ギアを変えろということが出来ずそのまま惰性でゴール。

3組 3着 二ノ神遼(6) 54.30

前半はリラックスした走りで 3 番手につける。5 台目を超えてからギアチェンジして一度は先頭に並ぶも、ラスト 2 台で歩数が増えて離されてしまい、3 着でゴール。タイムで拾われて決勝に進出。

DNS 池谷駿(3)

男子 400mH 決勝

5位 二ノ神遼(6) 54.10

予選同様前半はリラックスして、最下位ながらも自分のリズムでレースを進める。5 台目を超えてからギアチェンジして徐々に差をつめ、ラスト 40m で 2 人をかわして 5 着でゴール。わずかではあったが約 2 年ぶりに自己ベスト更新。



3000mSC 決勝

6位 阿部圭宏(5)9:56.69

1000mを3:07で通過し、2000mを6:25で通過した。その後4位まで浮上するもラスト2周粘れず6位でゴール。前走が9:45.32のPBだっただけに物足りないレースとなってしまった。

8位 小林由輝(3)10:04.15

スタート直後から入賞を狙える位置取りでレースを進めた。7位争いをしたままラスト1000mを迎えるが、水濠で差をつけられてラスト1周で離され、追いつくことが出来ずそのままゴール。

12位 鳥山拓実(3)10:25.56

男子 10000mW 決勝

6位 田中伊織(2)47:57.98

序盤は後方でレースを進め、徐々に順位を上げていった。8000m手前で5位の選手に追いつき、9000mでスパートして前に出るも、ラストの競り合いに敗れ6位でフィニッシュ。悪天候かつ初10000mWだったが、予想を上回るタイムでゴールすることができた。

7位 杉山大輔(2)48:04.66

2000mくらいまでは第三集団についていたが、一つでも上の順位をとるためにペースを上げ、集団から抜け出し前を追っていった。その後前の集団から落ちてきた選手を一人抜き、さらにその約100m前にいた選手に追いついたが、スパートに対応できる力が残っておらず離されてしまい、そのまま7位でゴール。

9位 山中遼平(1)50:01.72

スタートから2000mまでは後方の集団につい

てレースを進めたが、それ以降は単独走になってしまった、8位の選手が終盤に落ちてくることを期待していたが、結局差がつかないまま終わってしまった。大学に入って初めてのレースで、さまざまな課題が見えたレースであった。

男子 4×100mR 予選

2組 4着 笹山(4)-川野輪(3)-西尾(3)-川手(3) 42.76

笹山→川野輪でバトンミスが起こり、0.5秒ほどのロスが起きた。2走の出遅れもあり、全員スピードに乗り切れずフィニッシュした。

男子 4×100mR 決勝

8位 笹山(4)-上村(M2)-西尾(3)-川手(3) 41.97

決勝は2走に上村を起用し大内の2レーンから表彰台を狙った。しかし、各区分攻めたバトンパスができず、走り自体もみなまずまずで、外の山形大、八戸学院と少しずつ差をつけられて決勝最下位で終わってしまった。他大学との大きな差を感じた。コンディションの悪さもあったが、何より身体と心の準備不足を痛感した。

男子 4×400mR 予選

1組 1着 佐藤千(M1)-西尾(3)-千田(D3)-佐藤芳(6)3:19.05

男子マイルは春先調子の良かったエントリーメンバーの故障が相次いだため、西尾と千田を起用する形になった。1走の佐藤千が一番にバトンを繋ぎ、岩手大と秋田大に追われながらも1位を譲ることなくフィニッシュ。順当に決勝へ駒を進めた。



男子 4×400mR 決勝

2 位 佐藤芳(6)-西尾(3)-川野輪(3)-佐藤千(M1)
3:15.67

1 走の佐藤芳は 400m の専門らしい安定した走り
で 4 着でバトンパス。2 走の西尾は最初のカーブ
からスピードにのり、集団走をして同じく 4 着
でバトンパス。3 走の川野輪は、前半から飛ばし
で 1 人抜かすも最後に捲られ 4 着でバトンパス。
4 走の佐藤千は前半に 2 位集団に追いつき、最後
に 2 人抜いて 2 位でフィニッシュ。

男子走高跳決勝

5 位 嶋崎雄飛(4)1m95

正直、実力的には優勝狙えたが足首の怪我がひどく、やっとの思いで出場した。試合が始まる前
まで 190 も跳べないと思っていたが、蓋を開けて
みればなんとか 195 まで跳べたので健闘したと言
えると思う。怪我をしっかりと治し、七大戦では 2
m05 で準優勝したい。

8 位 平山朝陽(3)1m85

今シーズンは冬季にうまく練習を積めず、身体
のコンディションがあげられなかったため自己
ベストから遠い記録となってしまい、順位も振る
いませんでした。また助走が自分の中で確立され
ておらず迷いが出てしまっているため、次の対抗
戦までには必ず完成させ、結果が出せなければ陸

上に一区切りをつける覚悟で練習に臨んでいき
たいと思います。

16 位 柴田駿吾(1)1m75

助走後半でブレーキをかけてしまい、頂点の合
わない跳躍になってしまった。1.80 の 3 回の跳躍
のうちで改善をすることはできなかった。

男子棒高跳決勝

4 位 島村惟葵(2)4m50

雨の影響で少し遅れての試合開始となった。
4m50 から始め 2 本目でクリア。ポールが柔らか
かったため固く長いものへ変え 4m60 へ挑むも、
幅が出ず 3 本失敗。しかしながら普段使うこと
のできないポールを使うことができたためこれ
からの試合に繋げていきたい。

DNS 吉田悠人(3)

男子走幅跳決勝

15 位 坂元泰(3)6m24(+0.8)

1 本目 6m24(+0.8)

踏切が 20cm 弱手前で踏み切ってしまった。ま
た間延びしてしまったせいで体の遠くで踏み切
り、減速してしまったような感じがした。

2 本目 F

1 本目で少し遠いと思いスタート位置を前にし
た。1 本目よりも助走が乗りフェールしてしまっ
たが、踏切の体の軸の角度はよく、減速も少なく
この試合の中では 1 番納得のいく跳躍ができた。

3 本目 6m21(+1.1)

踏切のときに膝が折れてしまい腰が乗らずい
い記録がでなかった。

全体として、自己ベストには大きく及ばなかつた。
しかし、2 本目では踏切の角度の入り方を考察す
るキッカケになったため、収穫はあった。

17 位 常陸悠成(2) 6m05(+1.3)

怪我を治し切ることができないままの出場と
なり悔しい結果となった。反省は様々あるが、特
に試合の日までにうまくコンディションを整え
ることの難しさと大切さを改めて感じた。

DNS 細島慎友(M1)

男子三段跳決勝

6位 大谷航平(4)13m97(+0.9)

1本目 F

1本目ということもあり助走は良く走っていたが、走れすぎていたが故に足が合わずファール。ただ、全体的にスムーズな跳躍ができており、体感的にもかなり跳べたという印象。

2本目 13m84(+0.7)

1本目がFで内心焦りがあり、ベスト8に残るための安全策として助走距離をかなり伸ばして挑んだ。結果的には踏切板がかなり遠く感じ間伸びして跳び出す形になった。その結果スピードに乗れず全く距離が出なかった。

3本目 13m97(+0.9)

手拍子の力を借りたが、またしても踏切前に軽く間延び。また、ステップでバランスを崩しジャンプは無理やり押し切る形になった。

4本目 F

ベスト8開始までの時間にしっかりと足を休め、再び記録を狙いにいった。しかし、踏切で上方向に跳ねすぎてしまい、ステップに繋がれず駆け抜ける形になった。

5本目 F

追い風を上手くコントロールできずまたしてもファール。

6本目 F

気合いを入れて臨んだものの、突然の向かい風に対応できずに手前で踏み切り、跳べないことを確信して駆け抜けた。競技終了。

全体を通して何も良いところがなく、自分の実力不足を痛感する大会となった。ただ、自分の課題が明確になったという点ではプラスになった。本大会での経験を次戦以降に活かせるよう、日々の練習に努めていきたい。

7位 藤田想(3) 13m93 (+0.7)

春先から出ていた左踝付近の痛みがわずかに残っていたが、練習は積めており、跳躍の精度も上がってきている中での試合だった。アップでの動きは非常に良く、公式練習でも大きな欠点のな

い跳躍ができ、距離も14m前後は跳んでいた。

1本目は助走スピードが上がった分、4~5cmほどファウルした。跳躍自体は、力んでステップ・ジャンプで前傾気味になったが、動きは悪くなく、実測14m位は跳んでいた。

2本目は、1本目のファウルの影響で慎重な跳躍となった。踏切板をわずかに踏み、ステップ・ジャンプでは力が入り切らずに終わった印象だった。記録は13m93で、今日のベストだった。

3本目は3歩ともある程度適切な位置に接地し、ジャンプで蹴りきれなかったものの、ある程度まとまった跳躍となった。しかし、踏切で2~3cmほど踏み越えてしまっており、ファウルとなった。実測で14m20程度は跳んでいたの、惜しい跳躍となった。

4本目は、力んだためジャンプで重心よりも前に足を着きすぎ、その結果左踝付近の痛みが悪化した。記録は13m88だった。

足の痛みの様子を見るため5本目をパスして6本目を跳んだが、跳ぶ前からすでに左足の痛みが気になり、またそれまでの自分のパフォーマンスに腹を立てていたの、冷静さを欠いた跳躍となった。その結果、タイミングが合わず潰れたため、13m56という記録に終わった。

今回の試合は、怪我の不安もわずかにあったものの、技術面ではある程度の自信を持って臨んでいた。しかし、いざ本番の跳躍となると思うような動きができず、怪我也悪化させる事となった。今後の練習では、怪我に注意しつつ、どんな状況においても崩れない技術を習得したい。また、試合に出て場数を踏むことで、メンタル面も強化していきたい。

10位 久保田大聖(3)13m73(+1.3)

1本目 13m73

特段いいところはなかったが、無難にまとめられた。一本目としてはまずまず。

2本目 13m29

向い風になり、踏切手前でオーバースライドになった。ホップで上がり過ぎてステップで潰れた。

3 本目 F

3 センチほどのファール。今度はホップが低過ぎたが、思ったより潰れずにジャンプまでまとめられた。エイトに残りたいという焦りで全体的に力んでしまった。

男子砲丸投決勝

8 位 大野誠尚(M2)11m73

1、2 投目は体が開き、ファールや 9m 台であった。3 投目では上半身の開きを投げの直前までこらえることで修正し、11m28cm となった。予選よりもグライドのスピードを上げ、4 投目は勢いがあまりファールとなった。5 投目以降は、ファールしないように気を付けながらもグライドスピードを上げ、11m73cm となった。

DNS 小出寿啓(4)

DNS 川内蒼馬(3)

男子円盤投決勝

8 位 大野誠尚(M2)34m30

ターン後に足が流れないこと、体を大きく使うことの 2 つに気を付けた。1 投目では、円盤が指にしっかりとかかり、33m57cm となった。予選よりも最後の振り切り動作のスピードを上げ、4 投目以降は全て予選よりも記録が向上し、34m30cm と自己ベストを向上した。

12 位 小椋稜太(1)26m93

大学生初戦であったが正選手として出場させていただいた。他校の雰囲気呑まれ、調整うまく行かず納得のいかない投げになってしまったが課題も見付き、次に繋げられる試合となった。

14 位 倉部彰土(2)23m68

男子ハンマー投

7 位 川内蒼馬(3)26m64

ハンマー投デビュー戦。もっと投げられると思ったが、雨で滑ってうまく行かなかった。そう、きつと雨のせい。

8 位 金岡有途(2)22m67

点数稼ぎのために出場。記録は満足のいくものではなかったが、役目を果たせたので良かった。

9 位 増田併介(1)17m18

体幹がぶれてうまく力を伝えられていなかった。フォームが定まっていないことが原因なのでフォームの確認をする。

男子やり投決勝

5 位 増田併介(1)57m28

やりの向きが力の向きとあっていなかったの で飛ばなかった。また、投げの時体が左に流れる癖を改善したい。

9 位 川内蒼馬(3)52m14

1 投目 F

いつもより足が動いたがそのせいで助走が合わずラインを超えてファール。

2 投目 52m14

記録を残しにいった投げ。助走距離を修正し、丁寧投げた。意外と飛んだ。

3 投目 50m19

助走速度を上げて、思い切り振り切る意識。右にズレるし浮くし最悪。

DNS 秋場湧太(6)

男子十種競技

1 位 根本大輝(4)6389 点

1 日目

100m で自己ベストの 11.45 で 763 点を獲得。4 種目目の走高跳では自己ベストタイの 1m86 を跳びこちらも種目別トップ。1 日目最終種目の 400m では 52.00 の大学ベストで 725 点を獲得し、1 日目を 3361 点、1 位で折り返した。

2 日目

種目目の円盤投げでは自己ベストの 33m22、また棒高跳びでは自己ベストタイの 3m70、1500m では 613 点を獲得し総合 6389 点で優勝。

4 位 米井潤風(M2)5802 点

本大会に完全に照準を合わせ、6000 点と表彰台を狙って挑んだ。テーマは「失敗競技を 0 にすること」。天気は良くなかったが 1 日目の朝からテ

ンションを落とさず、PB 更新と 3 位以内のことだけを考えていて集中もできていた。内容も雨がとても苦手な私にしては特段悪くなかったが走高跳で 1m70 しか跳べず 1 日目は 2990 点と前回よりも低い点数で折り返し。「まだ終わってねえ！」と気合を入れ直して始まった 2 日目はコンディションがよく体もよく動いた。110mH と棒高跳、やり投で PB を更新し、最終種目を残した時点で初めて 5000 点を超え、成長を感じうれしかった。ただ 1500m で足がつりそうになってしまい 10 秒近くタイムを落としたのは心残りである。総じて今回の試合は「記録の底上げができた価値のある試合」だった。記録を狙いに行くだけでなく、悪い競技を減らすことで 300 点の大幅 PB 更新ができ、新しい競技の形を身に付けられたと感じた。しかし結果は 4 位で表彰台も 6000 点も取れなかったのだけはとても悔しかった。次回の北日本インカレでは 6000 点を超え入賞します。

DNS 小出寿啓(4)



女子 100m 予選

2 組 5 着 菊地志乃 14.81(-0.9)

スタートに大きく出遅れ、そのまま他選手に置いていかれたまま 5 着でゴール。

女子 400m 予選

1 組 4 着 加賀谷美結(2)62.73

最初から落ち着いたレースを展開する。150m 位の地点で前の選手との差が開いてしまったが焦らず自分のペースを最後まで崩すことなく 4 着

でゴール。

DNS 菅田理乃(3)

女子 400m 決勝

7 位 加賀谷美結(2)61.52

予選よりも最初の加速区間でスピードを使って飛び出す。トップスピードの差で中間地点では前の選手と離されるが、ホームストレートで粘りのある走りを見せて一人を抜き、7 着でゴール。

女子 800m 予選

1 組 3 着 加賀谷美結(2) 2:22.26

着順で予選を通過することに不安があったので最初の 200m でスピードを生かした加速をする。その後前の選手との差は開いたが自分が走りやすいペースでレースを展開する。最後の 200m で後ろの選手に越されてしまったが、着順での予選通過はできそうな状況だったのでそのままのペースでゴール。PB 更新。

2 組 1 着 菅田理乃(3)2:18.61

500m 地点まで 3 番手で展開。その後、決勝に備え切替走を行う。バックストレートで一番手まで上がりそのままフィニッシュ。

DNS 木村瑞葉(3)

女子 800m 決勝

1 位 菅田理乃(3)2:12.40

スタート直後うまく加速できず 200m を 3 番手で通過。400m 手前で前を走る選手のペースがあがり 2 番手につく形についていく。700m 通過後、スパートをかけ 1 番手になりそのままゴール。

4 位 加賀谷美結(2)2:19.81

最初の 200m が他の選手が思ったより攻めた走りを見せていたので自分も上げた。ラストの 300m で自分の位置や後ろの様子を確認し、思ったより力が残っている感じがしたので何も考えずにひたすら前を捉えることを考えスピードを上げる。最後の直線ではゴール間際に一人を捉え 4 着でゴール。PB 更新。

女子 1500m 決勝

14 位 江口真央(2)5:16.03

序盤からハイペースでレースが進んだ。ほぼ単独走で粘れずに終わった。

15 位 木村瑞葉(3) 5:22.25

集団のペースに全くついていけず後半もペースが落ちてしまい 15 着でゴールした。

女子 5000m 決勝

13 位 木村瑞葉(3) 20:15.41

最初から単独走になってしまい、そのままゴールした。

女子 100mH 予選

1 組 5 着 西條絵莉香(4) 19.46(-0.7)

スタートで出遅れてスピードに乗れず、4 台目以降リズムが崩れてしまった。そのまま 5 着でゴール。

女子 4×100mR 決勝

6 位 加賀谷(2)-伊藤(4)-西條(4)-菊地(2)54.13

1 走加賀谷は 4 レーン福島大から引き離されるも中盤でスピードを上げてバトンパス。2 走の伊藤へバトンはスムーズに渡り前半は大きな動きで走るも終盤バトンパスが上手くいかず減速。3 走の西條は減速しながらバトンを受け取り 2 レーン秋田大に追いつかれ、横並びでバトンパス。バトンはスムーズに 4 走の菊地へ渡るが前のチームとの差は広がる。そのまま 6 着でゴール。

女子 4×400mR 決勝

4 位 加賀谷(2)-伊藤(4)-原田(3)-菅田(3) 4:12.16

4 レーンからスタート。1 走の加賀谷は安定感のある走りで 4 位でバトンパス。2 走の伊藤はスタートの勢いのままスムーズに内側に合流。6 位でバトンパス。3 走の原田は一定のペースで走り、6 位のままバトンパス。4 走の菅田は軽快な走りで順位を 2 つ上げた。結果、4 位でフィニッシュ。



女子走高跳決勝

3 位 原田萌々子(3)1m45

天候が悪い中、1m40 からスタートした。1m40、1m45 は 1 本目でクリアすることができた。1m50 は惜しい跳躍もあったものの、跳ぶことができなかった。怪我で練習を積めず、記録的には満足のものではなかったが、表彰台に乗ることができたのは良かった。しっかりと調子を取り戻して七大戦に臨みたい。

女子棒高跳決勝

NM 村尾愛乃(3)

PB が 2m であり最初の高さの 2m30 を跳ぶには大幅更新が求められた。以前より確実によい跳躍ができるようになったが、クリアには及ばず NM。

女子走幅跳決勝

4 位 伊藤未空(4) 5m18

1 本目 5m18cm(+0.6)

助走は重かったが、踏切にかけての減速・間延び等は無く上手くまとめることが出来た跳躍だった。

2 本目 5m12cm (-0.5)

加速局面は 1 本目よりも良かったが、踏切 1 歩前で間延びしてしまい減速した。

3 本目 4m60cm (-0.7)

加速局面でピッチが変わってしまい助走が崩れた。50cm 手前で踏み切った。

4 本目 4m86cm (+2.1)

助走の中間疾走が跳ねるような走りになってしまい上手く加速出来ずに 20 cm手前で踏み切った。

5 本目 5m00cm (+1.4)

3・4 本目の助走の変化を改善し上手くスピードを上げることが出来たが、踏切で間延びしてしまい空中姿勢が崩れた。

6 本目 5m04cm (-0.8)

上手く加速して間延びせずしっかりと踏み切れたが、空中でこらえることが出来ずすぐに落ちてしまった。

以前からの課題である「助走の安定性」が露呈した試合内容だった。3・4 本目の跳躍にその課題が顕著に表れているので、原因を分析したい。しかし、跳躍のアベレージは上がっているのでその点はしっかりと評価して、次戦に向けて練習に励んでいきたい。

女子三段跳決勝

4 位 伊藤未空(4)10m64 (+0.1)

1 本目 10m45(+0.2)

記録を残すために助走スピードは抑えた。ホップで上に跳ねすぎてしまいバランスを崩した。

2 本目 10m24(+1.5)

1 本目で記録を残せたため、助走スピードを上げた。1 本目と同様、ホップで上に跳ねてしまいステップが潰れた。

3 本目 10m11(+1.3)

1・2 本目のホップにおける課題は改善されたが、着地の際にお尻をついてしまい記録は伸びなかった。

4 本目 F

ホップからステップにかけて上体が前傾してしまい、ジャンプで潰れてしまった。

5 本目 10m37(+0.5)

ホップを水平方向に飛び出すことができ、ステップからジャンプにかけてもあまり潰れずに上手くまとめることが出来た跳躍だった。

6 本目 10m64(+0.1)

記録を伸ばすために助走スピードを上げた。ホップ・ステップ共に助走スピードを殺すことなくジャンプにつなぐことが出来た。

専門種目ではないため、あまり練習を積めないまま臨んだが、なんとか得点をすることができ、良かった。足への負担等を考慮し中助走で出場したため、全助走でしっかりと練習を積んで次戦には出場したい。

DNS 須藤桃由(3)

DNS 原田萌々子(3)

女子砲丸投決勝

4 位 平谷めるも(2)10m36

グライドの勢いを保ったまま、真っ直ぐ押し出すことのできたため 10m を越える投擲ができた。しかし、スピードとパワーが足りなかったため、10m 後半まで伸ばすことができなかった。

女子やり投決勝

10 位 平谷めるも(2)30m71

トップ 8 に残ることができず、3 投しか投げられなかった。2 投目で 30m を越えるなげができ、3 投目でさらに攻めた投げをした。しかし、投げ終わって足元を見ると、ファールをしてしまっていた。今後はしっかりと足も合わせていきたい。

女子ハンマー投決勝

2 位 平谷めるも(2)40m58

全ての試技で勢いが無い投げをしてしまった。全体的なまとまりとしては悪くなかったが、スピードとパワーが足りない結果、記録が振るわなかった。



本大会には、三秀会の岩渕会長をはじめ、15名の多くの会員の皆様に応援にかけつけていただきました。応援ありがとうございました。

・応援に来てくださった先輩方(敬称略)

岩渕明 (S47)、佐藤健二 (S52)、眞山隆徳 (S56)、彦坂幸毅 (H2)、吉田真人 (H9)、長谷川翔平 (H20)、田中裕志 (H21)、岡本聖司 (H21)、染谷拓 (H21)、神林啓人 (H21)、藤澤鐘吾 (H21)、齋藤純 (H21)、落合裕規 (H22)、飛内茜 (H22)、今泉卓真 (H22)

◎第 84 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦

兼第 36 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦

・・・弘進ゴムアスリートパーク仙台

第 84 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第 36 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦、通称「北大戦」が、仙台で開催されました。結果は、男子総合 2 位(通算 49 勝 31 敗 1 分)、女子総合 2 位(通算 6 勝 22 敗)でした。猛暑の中でしたが、多数の部員が PB や UB、SB を更新しました。また、今年度の主幹は東北大学であり、本大会主務の木村瑞葉(3)をはじめ、多くの部員が運営、補助員に奮闘しました。本大会では、多くの OB・OG の皆様に競技役員としてご協力いただきました。誠にありがとうございました。

対校得点の結果と対校種目に出場した選手の観戦記を紹介します。

男子総合	88 点	2 位	女子総合	31 点	2 位
男子トラック	47 点	2 位	女子トラック	19 点	2 位
男子フィールド	41 点	1 位	女子フィールド	12 点	1 位 (引き分け)

観戦記

男子 100m 決勝

2 位 上村尠之(M2)10.87(+0.8)

スタートと加速含め力まずに進み、50m 付近で横並び一直線。その後の中間疾走はスピードを維持し、2 着でフィニッシュ。なお、自身の自己ベスト記録となる記録であった。

4 位 藤井大陸(M1) 11.09(+0.8)

良いスタートを切ったが 50m 付近から差をつけられ、フォームも良くできず、4 着でゴール。

5 位 元木盛太(3) 11.18(+0.8)

怪我からの復帰戦となった。完治はしていないが少しずつ練習を積んできて、順調な滑り出しだと思ふ。スタート 2 歩で少しつまずいたようになってしまい、一次加速が綺麗にいかず、少し強引な加速をしてしまった。後半は焦らず、無理矢理脚を回そうとはしなかったおかげで大きく崩れずに済んだのは良かった。二次加速、トップスピードの低さが課題として残った。

男子 200m 決勝

2 位 西尾陸大(3)22.05 (+1.2)

UB・3rdBest を出すことができた。余力を残して前半 100m を通過し、垂れることなく駆け抜けることができた。高気温と追い風に恵まれたし、なにより短距離陣の好記録続出で気持ちも高まっていた。

3 位 神近凜太郎(1) 22.51(+1.2)

30°Cを超える暑さがあったのに、アップの強度をいつも通りでやってしまった。そのため足に疲労が溜まっており、前半ピッチを上げることができず大きく出遅れてしまった。なんとか直線でギアを上げて 3 着には入ることができた。

6 位 吉田陸人(M1)23.28(+1.2)

スタートは上手くいったがコーナーで力んでしまい、スムーズに加速することが出来なかった。カーブ抜け時点で他選手に先行され、直線に入ってから上手くスピードを維持することが出来ず、6 着でゴール。

男子 400m 決勝

2位 菅野涼太(2)49.71

前半リラックスして入り、後半ギアチェンジの意識で走った。気温が上がり、体が動いたこともあり、ラストも減速せず、ゴールできた。

4位 川野輪拓也(3)

大外レーンからスタート。前半から飛ばすも体のブレが大きいのが分かり失速。最後少し上げたが4着でフィニッシュ。

DNS 池谷駿(3)

男子 800m 決勝

2位 富田綾人(4)1:57.02

常に2番手を走っていた。最後の直線で先頭に離されてしまった。

3位 錦戸昂雅(1)1:58.69

4位 和田朋也(M1)1:59.08

ブレイクゾーンを越えて、3番手に着きレースを進める。600mから先頭と差が広がり、ラストで後ろの人に抜かされるも粘って4位でゴール。

男子 1500m 決勝

3位 大塚光陽(3)4:02.63

スタート直後から北大3人の後ろについて4番手でレースを展開。残り100mまでそのままレースを進め、ラストスパートで1人抜かし3着でのゴールとなった。

5位 相澤啓太(4)4:09.92

北大の4分切りのレースプランに着いていったが、1000m付近で余力がなく、上位争いから脱落してしまった。残り1周の粘りも足りず、不甲斐ない結果になった。完全に実力不足です。

6位 稲川亮太(4) 4:27.00

正直実力差があるのはわかっていたので、どこまで行けるかチャレンジした。一週目を64で通過し600m付近から徐々に離れてしまった。その後ペースを維持できずゴールした。

男子 5000m 決勝

3位 深澤昇悟(3) 15:48.34

前半3kmは3'05秒ペースの集団で走っていたが、3kmを過ぎた頃から先頭に離され3着を維持する形で単独走となった。怪我からの復帰後で思うような走りはできなかったが、それでも最後まで粘れたのはよかったと思う。北大の1,2着と勝負できるように今後頑張りたい。

5位 坂本順(4)16:13.25

5月上旬にふくらはぎの肉離れをしてから、復帰後初レースだった。練習が継続できるようになったのは6月に入ってからだったため準備は万全ではなく、16分前後のゴールタイムを目標として臨んだ。レースでは中盤から後半にかけて徐々にペースを落としてしまい、タイムも順位も納得のいくものではなかった。ただ、久しぶりの試合で実践感覚を取り戻せたのは良かったと思う。七大戦や全日本大学駅伝予選会に向けて練習を継続していきたい。

6位 照内優允(1)16:29.66

2000までしか先頭に付けず、良いところがないレースをしてしまった。調整の段階から思うように動かず疲労を抜くこともできなかった。対抗戦に出場させていただいたのに申し訳ない結果になってしまった。

男子 110mH 決勝

2位 西里碧澄(2) 15.10(+2.4)

スタートの反応がよく、3台目までの加速がかなり良かった。1位の人に後半離されたが、2位を維持してゴール。コンディションが良かっただけに、もう少し良いタイムを出したかった。

DNS 中村祐貴(M1)

男子 400mH 決勝

1位 二ノ神遼(6) 53.98

前半から積極的にレースを進め、先頭の中村とほぼ同時に5台目を通過。そこからギアチェンジして後ろとの差を広げ、歩数も全て予定通りに走

り、1着でゴール。東北インカレから2週連続の自己ベスト更新。

3位 水澤大地(1)1:00.31

スタートから攻めることが出来ず後半も体力が無くなりいい所が無かった。最後は死ぬ気で走って3着でゴールした。

5位 中村祐貴(M1)1:03.72

男子 3000mSC 決勝

2位 杉山大輔(2)10:08.21

スタートから北大の選手が一人抜け出したため、OP参加の北大の選手について行った。1200m付近でついてきた選手がペースダウンしたため、前に出てレースを進めた。その後、1位の選手と差が縮まることなく2位でゴール。ほとんど全ての障害に足が合わず、障害手前でもたついてしまった。約一か月走っていなかった中でPBに迫るタイムで走り、得点を稼ぐことができたことはよかった。

3位 鳥山拓実(3)10:13.13

4位 野地健太郎(3)10:17.11

男子 5000mW 決勝

1位 田中伊織(2)23:50.01

最初の1000mは落ち着いて入り、2000、3000をペースアップして北大の選手を引き離した。対校の部では終始先頭を歩き、1着でフィニッシュ。30度を超える気温とインカレの疲労もあり、終盤ペースが落ちてタイムは振るわなかったが、公認PBを更新することができた。

男子 4×100mR 決勝

2位 笹山(4)-上村(M2)-藤井(M1)-川手(3) 42.18

東北インカレのタイム41.98を上回ることを目標としていたが、3.4走のバトンパスでバトンが届かず減速してしまったことが痛手となり目標タイムには届かず北大にも負ける結果となった。宮城県選や七大戦に向けてより綿密なバトン練習が必要であると痛感させられたレースだった。

男子 4×400mR 決勝

1位 川野輪(3)-西尾(3)-大塚(3)-上村(M2) 3:20.44

1走は川野輪。前半大きく離されるも最後には外レーンよりも少し前で1位でバトンパス。2走は西尾。中盤で追いつかれるも焦らず最後の直線で大きく突き放してバトンパス。3走の大塚は、安定したピッチで更に後続を離してバトンパス。4走の上村は前半から力強い走りで北大を圧倒し、そのままフィニッシュ。

男子走高跳決勝

2位 柴田駿吾(1年)1m85

1週間前の東北インカレでの課題であった、助走後半のブレーキが見られなかった。自己ベストへの挑戦の際には、力んで動きが硬くなってしまった。

4位 大泉宥太(1) 1m75

まだ身体の調子が完全ではない中、対校得点に少しでも貢献できてよかった。自分の跳躍の改善点が少し見えた試合だった。

DNS 藤田想(3)

男子棒高跳決勝

1位 島村惟葵(2)4m30

全助走で使うポールがないため短助走での出場。余裕をもって4m30からスタートするもポールを当ててしまい1回目は失敗。2回目で成功し1位を確定。高さをあげるも、1回目で肘を強打したため棄権。空中動作ができるようになってきており、今までの試合の中では一番できていたため残念。

3位 根本大輝(4)3m60

最初は3m50の高さから開始。扱うポールが今まで使ったことのないポールでうまく跳躍が決まらず、第3試技で成功。3m60、3m70でも跳躍が修正できず、記録は3m60で終了。

5位 倉部彰士(2)2m70

男子走幅跳決勝

1位 根本大輝(4)6m53(+0.1)

風向、風速がなかなか安定しない難しいコンディションでの試合だった。第2試技で6m53を記録し、暫定1位。その後記録は伸びなかったが1位のまま終了。

2位 山中勇利(4)6m21(+1.6)

3位 小南慧馬(1)6m17(-0.6)

1本目 F

感覚は悪くなかったが距離は思ったより伸びていなかった。助走のスピードはあったが上半身に力が入りすぎていてスピードを生かせていなかった。その結果高さが足りない跳躍だった。

2本目 F

やはりスピードはあったが、踏切前のピッチアップがうまくいっていないこともあり高さが出ていなかった。

3本目 5m00

6本飛ぶために合わせた。

4本目 F

もともと助走が安定しないのに疲れてきてさらに合わなくなってきた。助走練習が足りていないので助走のリズムと作りを考え直す必要がある。

5本目 100mに出るためにパス

6本目 6m17

初めてまともに記録を残した。100の疲労があり走れなくなっておりスピードが落ちて踏切前もかなり間延びしていた。総じて練習不足であったので一から助走を作り直し再挑戦したい。

男子三段跳決勝

1位 大谷航平(4)14m04(-0.3)

1本目 F

足に疲労感があり走りにキレがなかった。その影響でオーバーストライド気味の走りになり数cmファール。跳躍に関しては綺麗にまとまったという印象。

2本目 13m92(+0.4)

踏切まではスムーズに行けたもののステップで前傾を抑えられず、ジャンプで潰れた。

3本目 12m49(-2.2)

強烈な向かい風に翻弄されて走りが力んだ挙句、踏切板にも届かず。

4本目 12m19(+0.2)

記録を狙うため助走スピードを上げようとした結果、踏み切りにかけてのリラックスができず崩れた跳躍になった。

5本目 14m04(-0.3)

向かい風に負けないよう、重心低めの意識で走った。結果、またしてもステップでの前傾を抑えられずジャンプの踏切が窮屈になってしまったものの、そこまでの流れが全体的に良かったこともあり14m台に到達。

6本目 13m07(-0.1)

ステップに入る際の姿勢が崩れた。競技終了。

自分の中で理想とする動きを再現することはできず、満足のいく跳躍は一本もなかった。ただ、向かい風への対応という点では成長することができたように思う。

2位 久保田大聖(3) 13m62(+0.3)

1本目 F

着地は14m超えたくらいだが、20センチ弱ファールなので実測13m80程。助走の中間で地面をうまく押せてスピードに乗れた。ステップは跳ねたが前につんのめってジャンプに上手く入れなかった。

2本目 13m62

板に届かないと気づいて間延びしたのに加えて、動きがぐちゃぐちゃだったが、実測13m90くらいだった。

3本目 F

向い風になって対応できなかった。また、3種目出たので体力的にもたなくなってきた。

4本目 F

3本目と同様

5本目 F

3本目と同様

6本目 13m53

手拍子をもらってなんとか跳んだ。踏切ピッタリで、かつステップまで良かったが、ジャンプで大きく潰れ、距離が伸びなかった。

大泉宥太(1) NM

NM というなんとも情けない結果に終わった。今後、研鑽に努めたい。

男子砲丸投決勝

1位 大野誠尚(M2)11m93

1-3 投目は体が開かないように丁寧に投げ、11m55 となった。予選よりもグライドのスピードを上げ、4 投目に 11m93 と記録が向上した。5 投目以降は、勢いがあまりファールとなった。

5位 小椋稜太(1)8m18

初めての砲丸投。空気感もわからず、うまく投げることができなかった。練習投擲と本番の投げでのポイントが少し異なっていたように感じ修正できなかったのが心残りだ。場数をこなして砲丸投という競技にどんどん慣れていきたい。

男子円盤投決勝

1位 大野誠尚(M2)33m68

ターン後に足が流れないように気を付けた。3 投目では、ブロック動作がはまり、33m68 となった。予選よりも最後の振り切り動作のスピードを上げ、4 投目では体が流れ記録が低下した。5 投目以降は、力みが生じファールとなった。

2位 米井潤風(M2)32m48

先週の東北インカレから燃え尽き症候群になってしまい、全然モチベーションが上がらない中の試合だった。体も動かず F を連発。特に右に流れるいつもの展開になった。記録もよくない。いままで得意種目と思っていたが今一度丁寧に自分の投げと向き合おうと感じた。余談だが大野さんと円盤に出るといつも負ける。悔しすぎる…。

5位 小椋稜太(1)28m93

調整をうまく行い、体の状態は上出来だったと思う。遠心力をうまく活かした投げを意識したが意識しすぎたせいで力が入りすぎてしまった。成績は悪くないが納得はしていない。この反省を次

戦にうまく活かす。

男子ハンマー投決勝

4位 増田併介(1)15m23

投げの最後に角度がついておらず低い投げになっているのでそこを改善したい。重心が高くなって不安定なので意識する。

男子やり投決勝

2位 増田併介(1)55m71

腕の振り切り速度が遅いので速くするために壁当ての練習量を増やしたい。あと北大の先輩から懸垂をするといいとアドバイスいただいたのでやりたい。

女子 100m 決勝

4位 菊地志乃(2)14.43(-3.3)

スタートに出遅れるも、中盤に粘る走りができ、それほど失速せずにゴール。

DNS 加賀谷美結(2)

女子 400m 決勝

1位 菅田理乃(3)56.54

スタート後、うまく加速しスピードにのる。そのまま先頭を譲らずシーズンベストのタイムでゴール。

3位 加賀谷美結(2)1:02.15

最初の加速は自分よりもタイムの速い選手を追いかける形でうまく入れた。しかし、後半 200 m を過ぎたカーブ地点にかけて疲労もありストライドをうまく使うことができず、ピッチでもがくような形でそのままフィニッシュ。

5位 喜多和奏(1)1:05.36

呼吸は楽だったが、最後まで足が回らずタイムが出なかった。最後前の人に追いつきたいと思ったが足が動かず離されて終わってしまった。

女子 800m 決勝

1 位 菅田理乃(3)2:20.21

スタート直後、疲労を感じ1位を死守する事だけを考え走る。400m 地点で2番手の選手との距離が近くなっていたのでペースアップをする。その後、後続を引き離し1着でゴール。

3 位 喜多和奏(1)2:30.81

最初上げられず、後半に余力が残っていたにもかかわらずタイムが出なかった。はじめから前にもう少しついていこうとすればよかった。

DNS 木村瑞葉(3)

女子 3000m 決勝

2 位 江口真央(2)11:18.10

2つの集団に分かれてスタート。後半追い上げられたが順位は守ってゴール。

5 位 木村瑞葉(3) 11:26.51

順位を狙って後ろに着くも後半離されてしまい5着でゴールした。

6 位 塩見薫(1)11:41.16

2000m までは集団についていきレースをすすめた。その後体力的にきつくなり、集団から離されてしまった。その後も前の集団との差を縮めることができず6位でゴールした。

女子 100mH 決勝

4 位 西條絵莉香(4)18.99(+0.3)

何度か若干浮いてしまったが7台目まである程度のスピード、リズムを維持できた。8台目以降は少しテンポが落ち、そのまま5着でゴール。

女子 4×100m 決勝

2 位 加賀谷(2)-伊藤(4)-西條(4)-菊地(2)53.54

1走加賀谷はスタートから加速にのり、バトンゾーン時点では北大と並んで通過。その後、詰まることなくスムーズにバトンパスし、渡した時点では2位。2走の伊藤はスタートから一気にトップスピードに乗り、北大との差を少し詰める。後半にかけて力が入ってピッチが落ち、バトンパス

はもたつき、この時点では2位。3走の西條はバトンパス時に減速するも、その後は再加速する。後半にかけてピッチが落ち、北大との差が広がる。バトンは大きな問題なく渡る。4走の菊池は北大にかなり先行される形でバトンを受け取る。終盤まで安定した走りで北大との差を少し詰め2位でゴール。

女子棒高跳決勝

1 位 村尾愛乃(3)2m00

風が強い中うまく形を作れず、1m80、90、2mと全て3回目でのクリアとなる。2mの3回目ではよい跳躍ができたが、それを次の2m10で出せずPBタイで終わった。

女子走幅跳決勝

1 位 伊藤未空(4)5m23(+2.2)

1 本目 4m92(-3.1)

助走自体は悪くなかったが、強い向かい風の影響でスピードが落ちてしまい、間延びしてしまった。

2 本目 5m23(+2.2)

追い風に乗って上手く加速した。踏切前数歩でスムーズにピッチを上げることが出来たこともあり、記録が伸びた。

3 本目 F

記録を伸ばすためにスピードを上げた。加速局面・最後のピッチアップ共に6本の中で最も良い跳躍で、距離も一番出ていた。

4 本目 F

直前の跳躍と比べて、跳ねる助走になってしまい距離的には伸びなかった。1cm程度のファールだった。

5 本目 F

4本目の課題を意識して、助走を浮かさないようにした。踏切2歩前にしっかりと腰の位置を落とすことが出来た。

6 本目 5m15(-2.1)

1本目と同様、強い向かい風の影響で助走スピードが落ちてしまった。最後の1歩で間延びして

しまったこともあり、空中でバランスを崩した。

自己ベスト相当の記録が出たが、風の強さに翻弄されて3本ファールしてしまったため風への対策をしたい。調子がかなり上がってきたため、七大会では自己ベストを更新できるように練習を積んでいきたい。

5位 原田萌々子(3)4m11(-2.7)

助走、跳躍共に実力不足だった。本種目ではないものの、もう少し練習してから出るべきであった。だが、色々な人の跳躍を間近で見ることがで

きたため、良い経験となった。次に走幅跳に出るまでに助走や踏み切り動作などを改善したい。

女子砲丸投決勝

1位 平谷めるも(3)9m71

全体的にグライドのスピードが遅く、突き出しも弱かったため 10m を越えることができなかった。グライドからの投げ動作が特に遅いため、改善したい。

審判員として6名の先輩方にご支援賜り誠にありがとうございました。また、三秀会の岩淵会長をはじめ、30名を超える多くの会員の皆様に応援にかけつけていただきました。

・審判員としてサポートいただいた先輩方(敬称略)

小林徳彦 (S63 卒)、飯田夏生 (H31 卒)、鈴木圭介 (R2 卒)、水戸部慶彦 (R3 卒)、大木島壮 (R5 卒)、大宮日菜子 (R5 卒)

・応援・競技参加いただいた先輩方(敬称略)

鎌田勝夫 (S39)、岩淵明 (S47)、及川拓郎 (S47)、谷口満 (S48)、源栄正人 (S50)、佐藤健二 (S52)、柴田清 (S52)、佐藤源之 (S55)、後藤良 (S55)、眞山隆徳 (S56)、後藤康宏 (S58)、村橋光臣 (S58)、渡邊朝生 (S58)、三浦得雄 (S60)、渡邊裕生 (S62)、彦坂幸毅 (H2)、森健一 (H3)、久保正樹 (H5)、斎藤和也 (H7)、吉田真人 (H9)、千葉雄司 (H11)、今泉卓真 (H22)、赤平和紀 (H24)、南雲信之介 (H28)、熊谷駿 (H29)、千葉智史 (H30)、森涉 (H30)、中川岳士 (H30)、若林郁生 (R2)、秋山航 (R5)、八巻隼人 (R5)

◎全国七大学対校陸上競技大会に向けた抱負

全国七大学対校陸上競技大会が7月22日、7月23日に開催されます。主将、女子主将、各PCからの抱負です。応援の程よろしく願いいたします。

主将 齊藤宥哉(4)

主将の齊藤です。OBOGのみなさまには、日頃より、度重なるご支援、それからご声援を賜り、心より感謝しています。

さて、あと1ヶ月で七大戦が開幕します。ちょうど1年前の夏、七大戦をもって、チームが世代交代をしました。そこで個人的にもっとも印象的だったのは、東北インカレでは先輩の走りに魅せられ、はじめて正選手を勝ち取った七大戦では悔し涙を流す下級生たちのパッションです。みんな内側に熱いものを秘めていて、嘗めた辛酸はむしろ、今後への弾みに変えることができる、昨年短距離PCだった私の目には、そんなチームにうつりました。思ったとおり、いまでは、その下級生たちが練習を引っ張ることも増え、今年の七大戦はそんな彼らが最前線に立って戦います。七大戦は、チームが1年間そのために練習してきたと言っても過言ではなく、チームが世代交代をする節目でもあり、いわば集大成なのです。

東北インカレ・北大戦は惜しくもチームの目標を達成することができませんでした。しかし、だからといって、そのことがチームの士気を下げる契機だったなどとは、到底思えません。むしろ、チームは七大戦にむけて燃えています。部員たちと話していて、彼らの言動が凜とそれを示しています。ことに急激な成長を見せた新入部員たち、東北ICでの課題を克服し記録を伸ばした選手、下馬評を覆し上位入賞をした選手、七大戦のいわば前哨戦として対校戦に絡むことで当事者意識を高めた学部生たち、ほかPBを更新した複数の部員たちの記録は、すべてその確たる証拠だと思います。

必ず勝ちます。応援のほど、よろしく願いいたします！！

女子主将 伊藤未空(4)

OB・OGの皆様、いつも応援・ご支援してくださりありがとうございます。女子主将を務めております、伊藤未空です。

女子パートはこの1年間、七大戦女子総合優勝を目標に掲げ、練習に取り組んで参りました。東北大学主管の昨年度大会では、名古屋大学さん・京都大学さんに敗れ3位となり、大変悔しい想いをしました。一方、入賞種目数の多さからチームの総合力の高さを、再確認することも出来ました。この点に関しては、他大学と比較しても秀でたものが我々にはあると思います。さらに、シーズン初めから自己ベストを更新する選手も多数おり、個々の力の高まりも実感しております。総合力と個々の力を兼ね備えた今年度の女子チームは、現時点で女子総合優勝を狙える実力が十分についているのではないかと感じます。七大戦まで残り少ないですが、チームを鼓舞して個々人の七大戦への意識を高めていき、当日は多種目で見応えある戦いをお見せできればと考えておりますので、応援よろしく願いいたします！

短距離PC 川野輪拓也(3)

短距離PCの川野輪拓也です。

我々短距離パートは七大戦を見据えて長期的な練習計画を実行してきました。そのため選手たちは大きく成長し、それを何より自分たちが強く実感していると思います。個人種目、リレー種目共に東北大学5連覇に貢献できるよう頑張りますので、是非応援のほどよろしく願いいたします！

ハードル PC 池谷駿(3)

ハードル PC の池谷駿です。ハードルパートの七大戦の目標は「全員決勝進出&複数人表彰台」です。

昨年の七大戦では齋藤晃太前 PC のもとでハードルパートは大きな成績を残しました。今シーズンは昨シーズンと比べてパートの人数が大きく減少するなど難しい状況もありましたが、それでも部員一人一人が日々鍛錬を積み、七大戦に向けて確実に実力をつけてきました。大会当日では、その力を存分に発揮できるようパート一丸となって精一杯頑張ります。応援よろしくをお願いします。

中距離 PC 大塚光陽(3)

いつもお世話になっております。中距離 PC の大塚です。

中距離パートは1年間、東北 IC と七大戦を大きなターゲットにして練習をしてきました。今年は新入生や他パートからの新戦力によってパート全体のレベルが上がり、普段の練習から高い質でメニューをこなせています。その結果東北 IC では、パートで設定した目標得点以上の点を獲得することができました。七大戦でもこの勢いのまま、1点でも多く獲得できるようにパート全員で戦いますので、応援のほどよろしく願いいたします。

長距離 PC 向田祐翔(3)

長距離 PC を務めております向田です。日頃より多大なご支援、ご声援を賜り、誠にありがとうございます。我々長距離パートは東北インカレ、北大戦共に、1,2年生の活躍もあり全ての種目で点数を獲得しており、良い流れでトラックシーズンの締めとなる七大戦を迎えることが出来ました。七大戦は主要大会の中で最もレベルが高く、目標である点数獲得を達成することは容易ではありませんが、全日本大学駅伝予選会に弾みをつけるためにも1点でも多く獲得し、1秒でも速くPBを更新し、チームに貢献できるようパート一丸となって頑張りたいと思います。また、今年の開催地は東京であり、長距離種目には厳しい熱暑が予想されますが対抗、OP 種目共に粘りの走りを見せたいと思います。応援よろしくをお願いします。

跳躍 PC 久保田大聖(3)

跳躍 PC を務めております、久保田大聖です。

跳躍パートは七大戦の目標として、「跳躍種目の総合得点 2 位」を掲げております。先日の東北インカレでは、善戦した選手もいた一方で実力を出しきれずに悔しい思いをした選手が多かった印象です。その悔しさを晴らすべく、士気を上げてチーム一体となって七大戦に挑んで参ります。七大戦の跳躍種目は、現在京都大が圧倒的に強く、ほぼ全ての種目で上位選手を揃えています。しかし、その他の大学には我々の力で勝つことは可能だと考えています。3~6位の得点ラインは混戦が予想されるため、多くの選手にチャンスがあります。諦めずに得点を取りにいけます。私個人としては、PC に就任してから1年間、この七大戦を最大の目標にして練習してきたので、集大成として PC らしいところを見せられるように全力で跳んでいきます。応援のほどよろしく願い致します。

そして、これからの跳躍パートもどうぞよろしく願い致します。

投擲 PC 川内蒼馬(3)

七大戦優勝を1つの目標として投擲パートはこの一年間努力を重ねてきました。昨年の七大戦では各

選手善戦しましたが、力及ばず得点に苦しみました。その雪辱を果たすべく、我々投擲パートは日々鍛錬に励み、厳しい冬季練習を乗り越えました。今シーズンは既に多くの選手が記録の更新を果たしています。また、強力な新入生の加入もあり、各々が日々の練習から切磋琢磨し合い、とても良い流れができています。七大戦では全員がベストを尽くし、得点を重ね、部の優勝に貢献できるよう戦い抜きます。応援よろしくをお願いします。

◎自己ベスト更新者一覧(4/29~6/18)

・男子 100m

川手拓朗(3)11.16(+0.9)仙台大(4/29)
川村昌也(2)12.28(+1.0) 仙台大(4/29)
細島慎友(M1)10.98(+0.9) 仙台大(4/29)
久保田大聖(3)11.41(+0.5)福島大(5/14)
上村昶之(M2)10.87(+0.8)北大戦(6/18)

・男子 200m

川野輪拓也(3)22.57(-0.1)東北 IC(6/11)
菅野涼太(2) 22.63 (-0.6) 東北 IC(6/11)

・男子 800m

尾崎祐太(3)1:56.69 仙台大(4/30)
富田綾人(4)1:57.02 北大戦(6/18)

・男子 1500m

渡邊優典(1)4:04.10 東北 IC(6/11)
日引英舜(1)4:00.76 東北 IC(6/11)
北嶋僚大(1)4:06.54 北大戦(6/18)
工藤大介(M1)4:06.32 北大戦(6/18)
鈴木拓真(1)4:20.17 北大戦(6/18)

・男子 5000m

杉山大輔(2)16:04.77 仙台大(4/30)
矢嶋由弦(4)16:10.40 仙台大(4/30)
渡辺大樹(3)16:17.12 仙台大(4/30)
田中伊織(2)16:49.66 青森県春季(5/6)

・男子 10000m

千葉航太(2)32:16.52 東北 IC(6/11)

・男子 5000mW

田中伊織(2)23:53.81 青森県春季(5/4)

・男子 10000mW

杉山大輔(2)48:04.66 東北 IC(6/9)

・男子 110mH

西里碧澄(2)15.29(-0.7)東北 IC(6/9)
米井潤風(M2)16.78(+0.0)東北 IC(6/10)

・男子 400mH

池谷駿(3)53.60 仙台大(4/30)
二ノ神遼(6)53.98 北大戦(6/18)

・男子 3000mSC

杉山大輔(2)10:05.81 花巻トラック(4/29)
小林由輝(3)10:07.03 花巻トラック(4/29)

・男子走幅跳

建部奈瑠(2)6m19(+1.2) 仙台大(4/29)
坂元泰(3)6m57(+1.1)福島大(5/20)
米井潤風(M2)6m33(+0.2)福島大(5/13)
金岡有途(2)6m14(+1.8)福島大(5/20)

・男子走高跳

嶋崎雄飛(4)2m00 仙台大(4/30)

・男子棒高跳

倉部彰土(2)2m70 北大戦(6/18)

・男子やり投

川内蒼馬(3)52m14 東北 IC(6/10)

・男子円盤投

根元大輝(4)33m22 東北 IC(6/10)
大野誠尚(M2)34m30 東北 IC(6/9)

・男子ハンマー投

金岡有途(2)22m67 東北 IC(6/9)

・男子十種競技

根元大輝(4)6389 点東北 IC(6/10)
米井潤風(M2)5892 点東北 IC(6/10)

・女子 800m

菅田理乃(3)2:12.40 東北 IC(6/11)
加賀谷美結(2)2:19.80 東北 IC(6/11)

・女子 100mH

西條絵莉香(4)18.99(+0.3) 北大戦(6/18)

・女子三段跳

伊藤未空(4)10m64(+0.1)東北 IC(6/11)

◎今後の予定

7月22日～7月23日 全国七大学対校陸上競技大会

・・・東京都 都立大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場

8月10日～8月12日 第45回北日本学生陸上競技対校選手権大会

・・・仙台市 弘進ゴムアスリートパーク仙台

◎編集後記

今シーズン初の対校戦の東北インカレ、七大戦の前哨戦となる北大戦が終わり、七大戦まであとわずかとなりました。東北インカレ、北大戦と戦い抜き、七大戦に向けてチームの士気が高まっています。チーム目標の達成に向け、選手、マネージャー、スタッフが一丸となってより一層努力して参ります。応援よろしくお願いたします。

文責 OBOG 通信担当 須藤桃由

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp